

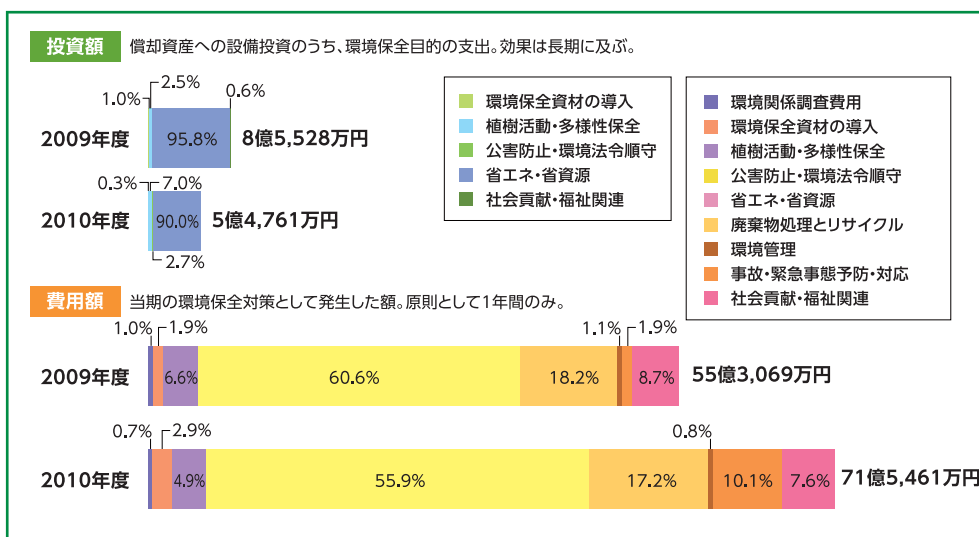
2010年度 SR会計報告

イオンモールでは、2002年度よりSR(Social Responsibility)会計を導入し、環境保全活動や社会貢献活動のコストを定量的に把握し、CSR経営における指標のひとつとしてきました。2010年度は投資と費用を併せた総額が、前年比で120.6%の77億221万9千円となりました。これは新規SCと大型増床が続いた2008年度の総額を超えて、過去最高となりました。昨年度集中的に取り組んだ太陽光発電施設についての投資は約5分の1に減少しまし

たが、一方でLED照明につきましては約6倍の1億円を超える投資を行いました。費用面では、特に防災・防犯関連施設の見直しを積極的に行い、消火器の入れ替え、煙探知機のメンテナンス、防犯カメラの増設などを多くのSCで実施したことで、5億3,710万円を計上しました。また昨年に引き続き省エネ対策を含めた設備運転管理の徹底や、水質対策などに力を入れたことで、前年比6億4,700万円増加の39億9,938万円を計上しました。

環境保全コストの主な内訳

	投資			費用			概要
	2009年度	2010年度	前年比	2009年度	2010年度	前年比	
環境関係調査費用	0	0	—	53,145	50,269	94.6%	大店立地法届けのための調査、交通量調査、環境影響評価等
環境保全資材の導入	8,324	1,615	19.4%	103,628	204,621	197.5%	リサイクル建築資材、エコ消火器、再生OA用紙等
植樹活動・多様性保全	21,779	38,286	175.8%	367,495	347,245	94.5%	植樹祭、育樹祭、屋上・壁面緑化、植栽管理等
公害防止・環境法令順守	0	14,750	—	3,352,228	3,999,375	119.3%	大気汚染防止、水質汚濁防止、施設メンテナンス等
省エネ・省資源	819,747	492,954	60.1%	232	1,272	548.3%	太陽光発電、LEDサイン、ハイブリッドカー導入等
太陽光発電	730,118	160,769	22.0%	0	0	—	
LED	17,500	101,360	579.2%	0	0	—	
廃棄物処理とリサイクル	0	0	—	1,007,572	1,228,704	121.9%	廃棄物処理・管理費用等
環境管理	0	0	—	59,728	56,823	95.1%	ISO活動推進費、教育費、情報発信費等
事故・緊急事態予防・対応	0	0	—	103,101	722,458	700.7%	防犯・防災施設、伝染病予防対策等
消火器・防災機器	0	0	—	27,761	537,100	1934.7%	
社会貢献・福祉関連	5,429	0	0.0%	483,555	543,845	112.5%	イオン1%拠出金、身障者駐車場、AED設置等
計	855,278	547,605	64.0%	5,530,685	7,154,614	129.4%	



投資+費用総額の年度別推移(千円)

2002年度	857,129
2003年度	1,468,265
2004年度	1,829,829
2005年度	2,155,587
2006年度	3,300,748
2007年度	4,808,598
2008年度	6,405,580
2009年度	6,385,963
2010年度	7,702,219

※2007年度下期以降は合併後の数値

期間：2010年2月21日～2011年2月20日
対象：イオンモール(株) ISO14001適用範囲内とする

- ① 複合コスト — 環境目的以外のコストと結合している場合についても、原則として全額計上しています。
- ② 人件費 — 「モール施設メンテナンス」「モールでの廃棄物処理とリサイクル」は人件費を計上しています。
- ③ 減価償却費 — 減価償却費は計上していません。

2010年度 CSR TOPICS

01 カーシェアリングサービスを開始



2010年9月より、イオンモール新瑞橋、イオンモール鶴見リーファ、京都ファミリーで、オリックス自動車株式会社の協力によるカーシェアリングサービスを順次開始しました。必要なときに必要な分だけクルマを使うカーシェアリングは環境負荷の低減という観点からも社会的に注目を集めており、周辺地域のお客さまから多くのご利用やお問い合わせをいただいています。



オリックス自動車(株)カーシェアリング営業部 開発営業チーム 谷合 賢司様・佐々木 望様

世の中の動きに敏感な方を中心に、日本でもカーシェアリングの利用が拡大しています。駐車場代や維持費をかけてマイカーを所有するより、そのお金を自分の好きなことに使った方が合理的で楽しいという前向きな考えです。イオンモールさんは抜群の知名度と集客力がありますので期待はしていましたが、スタートしてみると反響は予想以上でした。他のSCの近くにお住まいの方から「こちらでも始めてほしい」というご要望もいただいております。

編集後記

未曾有の大震災から始まった新年度。あらゆる意味で「持続可能性」ということについて真剣に議論がされています。地震・津波で被災された多くの方々、原発で被災された多くの方々の解決は程遠いですが、この問題は日本全体に課せられた大きな課題に他なりません。過去の価値観から新しい枠組みへ移行しようとする現在、皆さまのご意見を頂戴しながら、企業にとってのCSRを再度見直し、責任を果たしてゆきたいと思っております。

CSR統括部 CSR推進部 部長 矢島 誠



02 EV(電気自動車)社会のインフラ構築へ



大阪・関西は、研究機関や生産拠点をはじめ、新エネルギー関連産業、なかでもリチウムイオン電池に関しては世界有数の一大集積地です。このリチウムイオン電池の有望な用途とされているのがEV(電気自動車)です。

大阪府では2009年6月に、低炭素社会構築をもとよりEVを核とした産業振興を図るため、「大阪EVアクションプログラム」を策定しました。あわせて、オール大阪の産学官とEVのエキスパートで構成する「大阪EVアクション協議会」を設立し、さまざまな取り組みを進めています。イオンモール鶴見リーファでは、同プログラムに賛同し、2011年4月からEV用200V充電器の設置やオリックスカーシェアのEV導入、EVタクシーの呼出場所設置の運用など、さまざまな取り組みを進めてきました。このたび、さらなる充実を図るため、短時間で充電できるEV用急速充電器を設置しました。この充電器は、携帯電話やパソコンからも充電予約できる「おおさか充電インフラネットワーク」に接続しています。また、将来EVのバッテリーのリユースを見据えた蓄電池併設型となっています。

くわしいレポートをWebサイトに掲載しています。



本冊子は当社のCSRレポートのダイジェスト版であり、レポート全文はWebサイトに掲載されています。ぜひご覧ください。

<http://www.aeonmall.com>

または、 **イオンモール** **検索**